社会
に満足を。

» Satisfaction for Society

これまでにないやり方で今を見直し、
これまでより、もっと便利でもっと快適な、
そして環境にもやさしい製品・サービスと
仕組みを創造し、日々の暮らしに豊かさを、
社会を構成する皆様に安心と安全、
感動と満足をお届けします。

マテリアリティ

ユニークなデザイン・発想による価値ある商品とサービスの創出	P.23
バリューチェーンの変革による新しいビジネスモデルの創造	P.25
DXを活用した新しい個客体験の提供	P.26
商品の品質向上・安全性確保	P.27
商品に関する情報開示	P.29
地域社会とのパートナーシップの促進	P.30

関連するSDGs

一人ひとりが考える「社会に満足を。」

FOCUS ビズネット株式会社 経営管理担当

バリューチェーンの変革による新しいビジネスモデルの創造

ビズネット株式会社がお客様に提供する調達プラットフォームサービスは、購買業務に関わる多くの手作業や課題をデジタル化で解決し、お客様・サプライヤー様の購買業務のDX化に貢献しています。お客様の働き方をポジティブに変革するため、SDGsやサステナビリティへの意識醸成にますます注力していきます。

FOCUS ファニチャーカンパニー WEBマーケティング担当

地域社会との パートナーシップの促進

私のオフィスがある恵比寿ガーデンプレイスは、さまざまな人の想いが詰まった“街”です。恵比寿の文化形成の一端を担い、地域の皆様に愛される企業を目指します。これから始まる恵比寿との関係を、Webを通じて多くの人に伝えていきながら、さまざまなかたちで貢献していきたいと思います。

社会に満足を。

ユニークなデザイン・発想による価値ある商品とサービスの創出

新しい価値を創造するために、一人ひとりが「挑戦と改革」の意識を持って「ユニークネス」を追求していきます。常に生活者の視点に立ち、ユニークな発想で美しく心地よい商品やサービスをデザインし、お客様に新たな利便性・安全性や楽しさなどの価値を提供します。

1 顧客満足に繋がる環境商品・サービスの展開

プラスグループは企業理念である「新しい価値で、新しい満足を。」を具現化し、日々の事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していくことが使命だと考えています。私たちが大切にしていることは、お客様の満足です。何よりもお客様を重視し、常に「生活者視点」に立って物事を考え、ものづくりを行っています。さらに、商品・サービスの在り方を合理的かつシンプルに再構築する「社会最適」を追求し続けることで、原材料の調達から製造、販売、使用、廃棄、回収・リサイクルに至るあらゆるプロセスで環境に順応したものづくり・サービス開発を実現。お客様にも循環型社会の構築に参画いただくことで、社会全体での価値創出を推進しています。

また、私たちは、「自由と個を尊重」し、全社員が「デザインへのこだわり」を持つことで、プラスグループ全体で豊かな創造力を生み出しています。これからも新しい価値を創造するために、一人ひとりが「挑戦と改革」の意識をもって「ユニークネス」を追求していきます。

「COE365（コエサンロクゴ）」で環境配慮とユーザーの共感獲得へ。

プラス株式会社
ステーショナリーカンパニー
マーケティング本部　本部長
竹内 淳子

「COE365」シリーズ
紙ケース入り修正テープ「ホワイパー」

プラスチック製品を多く扱っている文具メーカーとして、環境配慮型の製品開発は大きなテーマです。文具の主な購買層であるZ世代はSDGsへの関心が高いことに着目し、「Z世代とSDGsを繋ぐエコ文具」として新ブランド「COE365」を立ち上げました。Z世代に流行している「エモい（エモーショナル）」という言葉に注目し、「エモい」イラストと、省プラスチック・再生プラスチックによる「エコロジー」仕様を掛け合わせた「エモロジー」というコンセプトのもと、ユーザーが「好きなもので環境に貢献する」ことを目指して製品開発を進めました。包材を樹脂から紙箱に変更し、再生材を使うほか、プラスチックを40%削減した新機構の「紙ケース入り修正テープ」も販売開始（→P.41）。ぺんてる株式会社や日本ノート株式会社の製品もラインナップして、毎日使う文具を統一感のある世界観で展開しました。主力チェーン店舗で大々的に売場展開され、売上も好調です。

ブランドサイトでは、商品イラストと関連付けた物語コンテンツなどユーザーが“体験”できるコンテンツを掲載。ピーク時には1日4,000件のアクセスを獲得しました。「お小遣いで初めて買ったものが文房具」という中高生も多いはず。「手のひらからeco」というスローガンに共感いただき、身近な「eco」を意識してもらうことを目指しています。

2 新たな働き方を支援する商品・サービスの開発

オフィス空間の提案は、その企業の事業内容はもちろん、業務の流れ、人の動きといった実務だけでなく、企業ポリシーや社風、対外イメージやブランディングといった企業の姿、フィロソフィーの部分まで理解し、お客様の想う「姿」をオフィスという「カタチ」にするという壮大なプロジェクトです。

プラスグループは、お客様のことを深く理解し、お客様の期待を超える満足はどこにあるのかを常に考え、それを具現化するオフィス空間を提案します。その企業が発信するメッセージに共鳴し、社内外の人々が集い、出会うプラットフォームとして「引力のあるオフィス」を提案するため、オフィス空間の既成概念にとらわれない自由な発想と感性を大切にしています。

CREATORE with PLUS

プラス株式会社は、理想のオフィスづくりをワンストップで実現する創造空間「CREATORE with PLUS(クリアトーレ ウイズプラス)」を運営しています。これまで、ショールームが少ない地域では、実際に家具や働き方を体感する機会が得づらいといった課題がありました。そこで、中国地方で最大の人口を有する広島市を皮切りに、福岡、名古屋に「CREATORE with PLUS」を開設。各エリアでお客様の理想に寄り添いながらオフィスづくりをトータルサポートしています。

加えて2022年には、ファニチャーカンパニーの新拠点である恵比寿に4つ目となる店舗をオープンしました。ショールーム内には、家具や床・壁などの空間素材、インテリアアクセサリーなどの展示だけではなく、それらのコーディネート事例や、VRを使ったオフィス空間の仮想体験ができるラボスペースを設置しています。さらに、昨今ニーズが高まっている「集中ブース」の体験スペースなども用意しています。「CREATORE with PLUS」は、ショールームの枠を越えたオフィスづくりにおける「共創の場」を目指していきます。

CREATORE with PLUS(恵比寿)

CREATORE with PLUS(名古屋)

CREATORE with PLUS (広島)

CREATORE with PLUS (福岡)

3 新しい物流モデルの創造

プラス ロジスティクス株式会社では、ノンアセット型※の事業展開の中で、センター運営から配送までの物流スキームをお客様ごとにカスタマイズして構築し、最適な物流戦略をデザインしています。また、プラス カーゴサービス株式会社とタウンサービス株式会社が提供する配送サービスでは、全国各地の地場に強い配送会社とのネットワークを活かして、お客様の荷物特性に合わせた配送パートナーをご提案します。最適な物流モデルを構築することは、配送コストの無駄を省くだけではなく、サステナビリティの観点でも、CO_2排出量の削減を通じた地球温暖化問題への対応や地域雇用の創出といった効果をもたらします。また、3社のシナジーを活かして、家具・家電の組立設置や医療を支える検体回収・輸送業務、プロ野球球団の用具配送など、画一的なスキームでは対応が難しい、付帯業務や専門性を伴う配送サービスを提供しています。「物流をデザインする物流設計企業」として、今後も固定観念にとらわれない発想でお客様ごとに最適な物流サービスを設計・提案していきます。

※ 自社の設備(倉庫、車両など)を保有しないこと。

社会に満足を。

バリューチェーンの変革による新しいビジネスモデルの創造

バリューチェーン全体を見渡す視点で、自社のみならず社会全体の効率性も追求し、新たな価値をつくり出していきます。組織を越えて現状の課題を共有し、グループ各社が連携することで、これまでにない観点で社会課題への解決策や仕組みを提案し、社会最適を実現します。

1 スマート事業によるモノ・サービスの最適な提供

プラス株式会社 ジョイントテックスカンパニーは、全国の文具事務用品や教材等の販売店との協働により、カタログ通販に専任営業サポートが付いたデリバリーサービスとして、法人・官公庁向けの「スマートオフィス」、学校・保育現場向けの「スマートスクール」、介護・福祉現場向けの「スマート介護」を展開しています。従来のオフィスに留まらないさまざまな「職場」に必要なモノ・サービスをワンストップでご提供し、「職場」の調達業務効率化をサポートしています。

smartoffice
（2003年開始）

文具事務用品を中心とした1,000万以上のアイテムをインターネット等でご注文いただき、最短翌日に直接オフィスへお届けしています。2022年からは、全国約1,800か所の地方公共団体を対象とした「スマートガバメント」を開始。特有の発注体制に対応したWebシステムを構築し、手軽な注文を実現しています。

smartschool
（1997年開始）

多忙な小・中学校の教員の方々を対象に、授業で使う教材・教具をお届けする「smartschool for TEACHERS」を2021年から開始。教材カタログから商品を選び、自治体の入札やメーカーの在庫確認を経て納品される従来の調達方法とは異なり、Webサイトからリアルタイムな在庫数が確認でき、最短翌日に商品を受け取ることができます。

介護・福祉施設向け通販
スマート介護
（2014年開始）

国の介護・福祉施設を対象に、提携する文具事務用品店や介護・医療用品の販売企業と協働し、物品の調達や経営サポート等のサービスを提供。多忙な介護・福祉施設のスタッフの方々の時間・労力の削減を支援しています。2022年9月現在、37,000以上の施設で採用いただいています。

2 業態変革による調達・物流業務の最適化

妙高コーポレーション株式会社では、これまで、幅広い小売店舗の顧客層と広域展開している営業拠点を活かして収集した豊富なデータをさまざまな角度から分析することで、市場動向に合わせた店頭支援提案を実施してきました。また、新たに物流課題解決型の新規事業開発を立ち上げ、小売チェーン店舗運営における物流の“ムダ・ムリ・ムラ”の効率化を目指すディストリビューションセンターの事業化にチャレンジしています。

また、大平紙業株式会社では、一人ひとりのユーザーにとってベストな「生活楽観商品」を世界中から探し出し提供することで、「業種卸」から「業態卸」への変革に取り組んでいます。

3 購買管理プラットフォームでのDX化加速

ビズネット株式会社では、企業や仕入先の発注・受注に関する業務全般を改善するシステムソリューションの提供によって、企業の購買活動のDX化を推進します。また、購買・請求業務のE2E(End-to-End)のデジタル化によって、モノ・サービスだけでなく情報を通してお客様への快適体験を提供するため、アナログな業務内容をデジタル変換し、これまでにない新しい価値を創出していきます。具体的には、購買管理プラットフォームをお客様企業の会計システムと連携させることにより、受発注のみならず請求・支払い等の後工程も含めてE2EでDX化を支援します。これにより、省人化・業務効率化を実現するとともに、ペーパーレス・省資源を推進する環境に優しい仕組みを提供し、社会に貢献していきます。

DXを活用した
新しい個客体験の提供

私たちのお客様は「顧客」ではなく、生活者一人ひとり（個人）である個客です。個客の「快適体験」を届けるため、ビジネスモデルそのものをデジタルへ変換し、まったく新しい価値を創出することで、ワクワクするような体験を創造・提供していきます。

1 次世代コアビジネス創造プログラムの推進

プラス株式会社では、2021年4月より、社長直轄のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みとして「みんなのDXプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトを通じて、会社のカルチャーや組織、ビジネスモデル、社員の意識や働き方、事業、業務内容、基幹システム等に至るまで“聖域”を設けず変革していく当社の未来戦略です。並行して、2025年をターゲットにした中期経営計画の柱となる具体的な事業の方向性「VISION 5Ds」も定めました。

また、「みんなのDXプロジェクト」の一環として、新規事業案を募集して参加者を選抜し、具現化に向け検討を進める「次世代コアビジネス創造プログラム」を開催しました。現在、新しい個客体験の提供に向けて、スプリント3へと活動を拡げながら推進しています。

VISION 5Ds

2 座席管理システムSuwaryの活用提案

プラス株式会社 ファニチャーカンパニーはデスクをIoT化してフリーアドレス座席の予約・履歴管理、座席確認・利用データ分析ができる最適なアプリとして、座席管理の最新クラウドサービス「Suwary（スワリー）」を提供しています。

コロナ禍での働き方の変化やオフィスワークとテレワークを組み合わせたハイブリッドワークの普及を通じて、社員一人ひとりの席をあえて固定せず、自由に席を選べるフリーアドレスの運用が再び注目されています。さらに、センターオフィスに限らず、働く人が自由に仕事をする場所を選べるアクティビティ・ベースド・ワーキング（ABW）というワークスタイルの導入を検討する企業も多く見受けられます。

そのような環境下で生産性を検証するにあたり、データによるワークプレイスの稼働状況や課題の可視化が求められています。ファニチャーカンパニーでは、「Suwary」が収集・蓄積しているシステムデータを用いた仮説・検証を行い、今後の新サービス・商品の開発に活かしながらハイブリッドワークにおける生産性向上に貢献していきます。

対応デスクを予約　時間になったらチェックイン　時間が終わったら退席

社会に満足を。

商品の品質向上・安全性確保

高品質で安全性の高い商品・サービスを提供することはもとより、事故・故障・不良品の発生の未然防止に努め、より高い安全と安心をお客様へお届けしてまいります。

1 品質基準の確立と製品安全性の確保

確かな品質で
安心・安全をお届けするために。
意識向上と知識の習得を通じて
「お客様満足」を追求していきます。

プラス株式会社
ファニチャーカンパニー
前橋工場　工場長
坂元 勝利

プラス株式会社では、JIS規格に準じた製品評価と、独自の評価基準を設定しています。そしてなにより、お客様に安心・安全をお届けすることを目指して、「お客様満足」を追求しています。

プラス株式会社前橋工場では、月に1度、QC委員会を開催し、各部署の課題の共有や対策の実施を行っています。また、社員のスキル向上のため、技能士資格・QC検定資格の取得を推進しています。2022年時点で技能士資格取得者は37名、QC検定資格取得者は122名です。今後も引き続き資格取得率の向上を目指し、正しい知識を習得できる機会を社員に提供するとともに、高いレベルで品質を確保するための課題解決力を育成し、「お客様満足」をお約束してまいります。

2 高品質で安全性の高い物流サービスを構築

プラス ロジスティクス株式会社は、プラスグループのみならず、幅広い業種・業態のお客様に、最適な物流ソリューションとファシリティ・エンジニアリング領域のサービスを提供しています。常にお客様の最前線に位置する「物流パートナー」として、「好感度 No.1」をモットーに、高品質のサービス提供を目指すとともに、内装工事・家具施工といったサービスを提供し、最適物流システムを構築しています。

また、プラス カーゴサービス株式会社は、「届けるを、もっと自由に、新しく。」というテーマのもと、お客様ごとのニーズに合った配送方法・配送ルートをカスタマイズすることで、オンリーワンの物流サービスを展開しています。

さらにプラス株式会社前橋工場では、JIS(日本産業規格)に準じた独自の基準で品質を管理するとともに、物流品質の向上のため、全国の主要拠点で物流・施工の協力会社様と家具勉強会を実施。家具の歴史や製品知識に加え、配送・施工時の注意点を共有しています。今後も協力会社の皆様と共に取り組んでいきます。

3 パートナー企業と歩む品質向上の取り組み

お取引先様と取り組む品質向上活動

荷主企業様との取り組み

プラス ロジスティクス株式会社は、物流センター稼働後も荷主企業様との定例会を設け、KPIに沿って定期的に相互チェックを行い、継続的に物流改善を図っています。ジョインテックスカンパニーとは毎週の品質会議に加え、配送パートナー様を交えた3社での配送品質会議も毎月開催し、日々発生する改善課題について丁寧に議論を重ね、物流品質の向上に努めています。また、お取引先様の生の声を活かすため、CRM部主催の「お客様の声を聴く会」へも積極的に参加しています。各拠点の改善活動は本部で集約し、品質・生産性向上の目標を大幅に達成したセンターや、新たな改善活動に積極的に取り組んだ人物への表彰も行っています。お取引先様およびお届け先のお客様にご満足いただける高い物流品質を目指し、本部、現場が一丸となって取り組んでいます。

配送パートナー様との取り組み

プラス ロジスティクス株式会社は、家具や什器を配送するだけではなくお届け先での組立設置にも対応しています。年に1回、配送や組み立ての品質向上のため配送パートナー企業各社を訪問。お客様と直に接するドライバーの方々を対象に講習会を開催し、パートナーごとに異なる改善課題の共有・意見交換を行っています。また年初には荷主企業を交えてエリアごとに品質会議を開催、家具の組立配送に関わるすべてのパートナー企業様に品質実績や目標値の共有を図るとともに、品質向上に大きく貢献いただいたパートナー企業様を優秀パートナーとして表彰しています。

※ 2021年から2023年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い訪問による講習会、品質会議の開催は中止。2024年より再開を予定しています。

パートナー企業様の表彰

施工パートナー様と行う家具勉強会

プラス株式会社とプラス ロジスティクス株式会社では、2016年より年に1回、施工パートナーの皆様との家具勉強会を全国7か所で開催しています。各地域の施工パートナー様を対象に、オフィス家具の種類や素材、機能といった基礎知識から、保証、メンテナンス、クリーニング、主力商品のセールスポイントや他社競合製品に至るまで、幅広い内容について講義や意見交換を実施しています。

また、製品に関する優れた意見を提案いただいた施工パートナー様に対しては、表彰を行っています。お客様と直に接する機会の多い施工パートナーの方々に製品や品質に対する正しい知識を持っていただくとともに、配送・施工現場で起きている事象を製品へフィードバックすることを目的としています。

※ 2020年から2022年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い家具勉強会の開催は中止。2023年以降の開催を計画しています。

勉強会の様子

社会に満足を。

商品に関する情報開示

商品に関する情報開示・情報提供もサービスの一環と捉え、基本的な商品情報に加え、環境面や正しい使い方など、お客様が求めている情報を適切に提供します。必要な時に見やすく、すぐに入手できるように配慮しながら、快適で楽しく、安心して商品が使用できる環境を整えます。

1 適切で誠実な情報開示

プラスグループは、お客様の安全・安心を最優先に考えています。商品仕様をはじめ、品質や環境に関する情報や使用方法等について、お客様に誤解を与えることのない正確で分かりやすい表示・表現に努めるとともに、お客様が適切な商品・サービスを選択できるようWebサイトや商品カタログに公開しています。

また、商品の欠陥やその使用・利用に伴う重大事故が発生した場合、法に則って所管官庁に速やかに報告し、お客様にできる限り早くお知らせするため、新聞社告、Webサイト等を通じて事故情報を公開しています。

▶「プラスグループ各社商品の回収・交換のお知らせ」一覧
https://www.plus.co.jp/info/

2 Webサイトにおける製品情報提供の高度化

2021年、ページをめくる従来型のデジタルブックに代わり、スマートフォンほかさまざまなデバイスで見やすいWebサイト「PLUS WEB CATALOG」へリニューアル。2022年には、製品をより身近に感じていただき、理解を深めていただけるよう「動くカタログ」を公開しました。

「PLUS WEB CATALOG」は、フリーワードや各種コードをはじめ、製品群、カテゴリー、使用する空間等でも検索できるのはもちろん、取扱説明書や単体カタログ、冊子版カタログのPDFダウンロードにも対応しています。

「動くカタログ」は、製品の紹介動画に加え、任意のアングルから製品を確認できる「3D View」や、一部のチェア製品では水平回転させて背面まで確認できる「Rotated View」といったリッチコンテンツをご覧いただけます。

今後も製品を深く理解していただくため、情報の充実と機能拡充を進めていきます。

▶「PLUS WEB CATALOG」
https://itemplus.plus.co.jp/

▶「動くカタログ」
https://www.plus.co.jp/plus_tv/

「PLUS WEB CATALOG 2023」(2023年4月時点)

「動くカタログ」(2023年4月時点)

地域社会との
パートナーシップの促進

社会貢献と環境保護の観点から地域社会とのパートナーシップを重視しています。私たちだけで解決できない社会課題があることを自覚し、地域住民の方々や自治体・地元企業などと協働することで地域振興に向けた施策にも取り組んでいきます。

1 パートナーとの協業による地域経済の活性化

人や街と繋がり、共創していく「PLUS DESIGN CROSS」

2022年12月、プラス株式会社 ファニチャーカンパニーは、オフィス家具事業の本部拠点を恵比寿ガーデンプレイス（東京都渋谷区）センタープラザ2Fへ移転し、「PLUS DESIGN CROSS」（→P.17）をオープンしました。新型コロナウイルス感染症をきっかけに生活様式が変わり、家とオフィス、生活と仕事の境界が曖昧になってきた中、オフィスの存在意義が問われています。「PLUS DESIGN CROSS」は、単純に業務を行う場ではなく社内外のあらゆるステークホルダーと積極的に繋がりを持ち、企業活動と社会活動の拠点となる新しいオフィスの形として、多様なパートナーとの共創活動を展開していきます。

オフィス内は恵比寿ガーデンプレイスを象徴するアーチ形状をデザインモチーフとして採用することで、街との繋がり・調和をイメージしています。共創活動の場を表現するエリアとして設けたオフィス中央の「SALON（Creation space）」には、森をイメージしながら日本の各地で育った多品種の木々を配置。多様なアイデアを育み、新たな価値創造を目指す共創活動の場を、心地よく開放感あふれる空間に仕上げました。「SALON」では今後、恵比寿に集まるさまざまな共創パートナーと共に、イベントやプロジェクトを通して新しい価値を創造していきます。

また、恵比寿ガーデンプレイス内には「PLUS DESIGN CROSS」のほか、「はたらくをたのしく」をテーマにしたワーク&ライフスタイルショップ「ouchi GARAGE（おうちガレージ）」や、ワンランク上の在宅ワークスペースづくりのヒントが見つかるワークスタイルショップ&ショールーム「CREATORE with PLUS」（→P.24）など、一般の方も気軽に足を運んでいただき、実際の製品・サービスを体感いただける店舗を設けています。

プラスグループはこれからも、多種多様な人材、文化、生活、ビジネスが集積する恵比寿という街を舞台に、さまざまな価値観に触れながら社会課題解決へ取り組み、また地域とのコミュニケーションを深めることで、恵比寿ならではの共創活動を発信していきます。

共創空間「SALON」

開放的なテラススペース

「ouchi GARAGE」

2 「教育支援」「環境保全」「文化・地域交流」による地域貢献活動の推進

ベトナム学生対象の奨学金制度

プラス株式会社は1995年に業界に先駆けてベトナムに事業展開し、全額出資のベトナム現地法人PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD.（ベトナム：ドンナイ省、以下「PVI」）を設立しました。現在では2,000名を超える現地社員と共に、成長するステーショナリー事業を製造面で支えています。

その長年のご支援に対する感謝を込めて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの想いから、「日越友好40周年」の節目の年である2013年、ベトナムの大学生および小学生を対象とした奨学金制度を設立しました。本制度は、留学生の受け入れに熱心に取り組まれている青山学院大学との提携により、同学のベトナム人留学生を支援する「PLUS・AGU ベトナムスカラーシップ」と、PVIを窓口にベトナム国内の小学生を支援する「PLUS Vietnam Scholarship」の2つのプログラムを実施しています。

「PLUS・AGU ベトナムスカラーシップ」奨学金授与式

2022年度は、青山学院大学に在学中の留学生4名を奨学生として決定しました。2023年2月2日、恵比寿ガーデンプレイス「PLUS DESIGN CROSS」にて奨学金授与式を行い、証書を授与しました。当日は、資料を交え、とてもきれいな日本語で日本での生活についてスピーチをしてくださいました。日本で得たたくさんの知識や経験をベトナムに持ち帰って今後に活かしていただきたいと思います。

- **対象人数：**2022年度 4名
- **対象者：**青山学院大学ベトナム人留学生
- **支給内容：**750,000円／1名
- **支給開始：**2022年10月

「PLUS Vietnam Scholarship」奨学金授与式

2022年度も100名の奨学生を決定しました。2022年10月11日にVinh Cuu（ヴィンクー）県、14日にLong Khanh（ロンカイン）市にて奨学金授与式を行いました。授与式では子どもたちの代表からお礼のスピーチに加え歌や踊りも披露されました。その様子は現地の新聞やテレビでも取り上げられました。

- **対象人数：**2022年度 100名
- **対象者：**ドンナイ省の小学生

※ ドンナイ省内の2県を選定し、教育推進協会より対象県内の小学校へ奨学金制度について通知。PVIで制定した本制度運用ルールに基づき、授与対象奨学生を選定し、教育推進協会の協力の下、奨学金授与式を開催しています。

- **支給内容：**200万ドン／1名（日本円換算：約10,000円）、プラス文房具ギフトセット、お菓子
- **支給開始：**2022年8月

国際ユース作文コンテストへの協賛

2022年11月、「国際ユース作文コンテスト」（公益財団法人五井平和財団主催）にプラス株式会社の製品を寄贈しました。

「国際ユース作文コンテスト」は、平和の文化と持続可能な地球社会を築いていくうえで、子どもや若者たちのエネルギーと創造性、自発性を活かすとともに、あらゆる世代の人々が彼らの発想から学び、より良い世界のために何ができるか、それぞれ考え、行動することを奨励する目的で2000年から毎年開催されており、プラス株式会社は2018年より本コンテストに協賛しています。

今後も本コンテストへの協賛を通じて持続可能な開発のための教育活動に貢献してまいります。

ハシレ!エンピツケズリ!
（子どもの部 入選副賞）

チームデミ
（若者の部 入選副賞）

エアインスイット
（若者の部・子どもの部 佳作副賞）

企業訪問学習・工場見学の受け入れ

プラス株式会社は、次世代の子どもたちのキャリア教育を支援するため、企業訪問や工場見学の受け入れを行っています。

2022年12月、「ancora（アンコーラ）」※銀座本店に神奈川県伊勢原市の自修館中等教育学校より18名にお越しいただき、中高生の万年筆体験学習を実施しました。当日は、万年筆の構造や仕組み等の基礎知識について説明を行った後、一人ひとりに好きな色のインクをお選びいただき、実際の万年筆にインクを吸引する流れを体験いただきました。完成した万年筆は、当社の文具製品とあわせてお土産としてお渡ししました。万年筆にあまり馴染みがない生徒の皆さんに万年筆の仕組みやインク選びの楽しさを知っていただき、手書きの良さをお伝えする機会となりました。

また2021年8月より、オンラインで企業訪問を体験していただけるプログラムを開始しました。この「オンライン企業訪問」では、ライブカメラによるオフィス内のご案内、会社・事業説明、製品開発担当者へのインタビューおよび製品開発に関する参加者へのヒアリングなど、実際に当社に来社いただく場合と同等のプログラムをご用意しています。2022年度は計2校、32名にご利用いただきました。

加えて、オフィス家具を製造する前橋工場も地域の学校の工場見学を受け入れています。2022年度は計8校、72名に家具の製造工程を見学いただきました。

※ 2021年3月にセーラー万年筆株式会社と共同で立ち上げたD2Cブランド。デジタル化・ICT化が急激に進む一方で、リアルコミュニケーションやアナログへの回帰というニーズに注目し、自分の字で「書く」、思いをこめて「描く」の価値を見直し、文房具の持つ「愉しさ」「こだわり」「驚き」を提供するショップブランドです。

「プラス クリーンフェス 2022」の実施

「社会・環境への貢献」「周辺地域の美化」「社員のサステナビリティへの参加意識向上」を目的に、2015年3月より、本社・虎ノ門オフィス周辺の清掃活動をスタートしました。また、群馬県前橋市にあるプラスランド敷地内を流れる神沢川や工場外周の清掃活動「神沢川クリーン計画」も、前橋工場スタッフを中心に1993年より毎年実施しています。

2016年にこれらの活動を統合、2017年にプラスグループの清掃活動「プラス クリーンフェス」に名称変更するとともに、国内拠点だけでなく海外拠点にも規模を拡大して活動を開始しました。

2019年度は国内グループ各社25か所、海外グループ各社6か所（ベトナム、中国2拠点、台湾、ドイツ、アメリカ）計31か所、総勢900名以上の社員が参加し、過去最大規模での実施となりました。2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国内グループ各社10か所、海外グループ各社3か所（中国2拠点、ベトナム）計13か所、約300名にて感染予防対策を徹底し、社員の安全を確保したうえで実施しました。

「プラス クリーンフェス 2022」の様子

3 事業活動を通じた地域社会への貢献

災害時の物資供給による地域貢献

2022年10月、プラス株式会社 ジョインテックスカンパニーは、宮城県岩沼市と「災害時等における物資供給に関する協定」を締結しました。本協定では、近年の全国における自然災害の発生状況等を踏まえ、岩沼市域内で地震・津波・大雨等による災害が発生、または発生するおそれがある場合、岩沼市からの要請を受け、ジョインテックスカンパニーが必要な物資の供給を行うことを定めています。8月に岩沼市に開設した物流拠点「ジョインテックス東北センター」では避難所生活で必要となる衛生用品なども豊富に保管しており、その物流インフラ機能が高く評価され、締結に至りました。

これまでもジョインテックスカンパニーは、2015年10月に、国土交通省中部地方整備局と「大規模災害時における物品等調達に関する協定書」を締結しています。これは大規模災害発生時、国土交通省中部地方整備局より緊急物資提供の協力要請があった場合、「ジョインテックス中部センター」（愛知県大府市）に保管しているコピーペーパー、アルカリ乾電池、油性マーカー、ごみ袋、懐中電灯など9品目について、可能な範囲で供給を行うものです。また、2017年3月には、東京都杉並区と「災害時等における緊急用資機材等の提供に関する協定」を締結。被災時に全国から届けられる支援物資を迅速かつ的確に被災者に届けるため、テントや物資拠点用バルーンテントといった避難所運営のための資機材を提供することを約束しています。

今後も地域との連携を深め、非常時における物資供給を通して、地域の活性化と持続的な発展に貢献していきます。